

Newton 法

$f(x) = 0$ を解くための Newton 法

```

 $x^{(0)}$ : given
for  $k = 0, 1, 2, \dots$  {
     $x^{(k+1)} := x^{(k)} - J(x^{(k)})^{-1} f(x^{(k)})$ 
}
    
```

ただし $J(x) = (\partial f_i / \partial x_j)$ は f の Jacobi 行列 .

定理 (Newton 法の 2 次収束性) $f(x)$ が真の解 x^* の近傍 D で C^2 級で, $J(x^*)$ が正則ならば, x^* から十分近い初期値から出発する Newton 法の近似解は x^* に 2 次収束する :

$$\exists C > 0, \quad \|x^{(k+1)} - x^*\| \leq C \|x^{(k)} - x^*\|^2 \quad (k = 0, 1, 2, \dots).$$

(注) $J(x^*)$ が正則でない場合の振る舞いは一般に複雑 . ただし 1 次元のときは「重根ならば 1 次収束」が成り立つ .

(注) 最適化における「Newton 法」($\min g(x)$ を求めるための Newton 法) と混同しないこと .

代数方程式に対する Durand-Kerner-Aberth(DKA) 法

n 次多項式 $p(z) = 0$ の根を求める . $N = \{1, 2, \dots, n\}$ とおく .

DKA 法

```

初期値  $z_i^{(0)}$  ( $i = 1, \dots, n$ ) を定める .
 $k := 0; I := \emptyset.$ 
( )  $\Delta z_i^{(k)} := \phi_j(z_1^{(k)}, \dots, z_n^{(k)}) \quad (i \in N - J).$ 
 $z_i^{(k+1)} := z_i^{(k)} + \Delta z_i^{(k)}$  ( $i \in N - I$ );  $z_i^{(k+1)} := z_i^{(k)}$  ( $i \in I$ ).
 $I := I \cup \{i \in N - I \mid |\Delta z_i^{(k)}| \leq \varepsilon |z_i^{(k+1)}|\}$ ;  $I = N$  なら終了.
 $k := k + 1$ ; ( ) に戻る .
    
```

2 次法 :

$$\phi_i(z_1, \dots, z_n) = -\frac{p(z_i)/a_0}{\prod_{l \neq i} (z_i - z_l)} \quad (i \in I).$$

3 次法 :

$$\phi_i(z_1, \dots, z_n) = -\frac{p(z_i)/p'(z_i)}{1 - \frac{p(z_i)}{p'(z_i)} \sum_{l \neq i} \frac{1}{z_i - z_l}} \quad (i \in I).$$

[初期値の定め方]

初期値として解の近似値の見当がつかないとき, 根を包み込むような初期値の設定の仕方が知られている . $p(z) = \sum_{k=0}^n a_{n-k} z^k$ に対して, $\beta = -a_1/(na_0)$ とおく . このときある $r > 0$ を (ある手続きにより) 定めて, Aberth の初期値 :

$$z_i^{(0)} = \beta + r \exp \left[i \left(\frac{2\pi(i-1)}{n} + \frac{3}{2n} \right) \right] \quad (i \in N)$$

が目的の初期値の組になる。 r の見つけ方については、『数値解析入門』(山本)などを参照のこと。

(例) [山本『数値解析入門』より引用]

$$p(z) = z^5 - 10z^4 + 43z^3 - 104z^2 + 150z - 100, \text{ 解 } 1 \pm 2i, 2, 3 \pm i.$$

